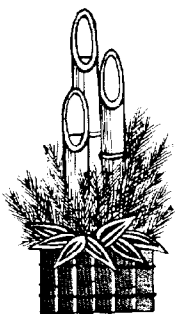


あまのこ愛人

新年を迎えて

吉 永 洲 神



同志会員の皆様明けましておめでとうございます。ご家族お揃いでよき初春をお迎えの事と拝察致します。病氣ご療養中の方、お具合は如何でしょうか。案じ申し上げます。

昨年亦、皆様方のご活躍により輝かしい歴史を留めました。即ち、

2月19日、詩吟名人会紅白ペア吟詠対抗戦優勝

6月12日、全国大会合吟コンクールで昨秋に続き

優勝

12月11日、吟士権決選で漢詩六段以下の部優勝

短歌・俳句の部準優勝

新体詩の部優勝

漢詩奥伝以上の部第五位

吟士権者被認定

であります。有難うございます。心から感謝申し上げます。平成18年度吟士権決選は9月10日です。これに向けて一次予選の一回目は4月9日(日)、二回目は5月21日(日)が予定されています。意欲のある方の挑戦を希望します。

さて、社会に目を致しますとき、昨年は事故が非常に多い年でした。JRの福知山線脱線事故・山形の脱線事故・仙台育英校生徒の交通事故等々、人間は何時死に目に遭うか全く予想できません。日々生かされている幸せに感謝すると共に、自分を大切に充実した日々を送らねばなりません。その手段の一つに吟道はあると思います。吟道は、人生のバックボーンであります。悲しい時は、力を与えてくれます。嬉しい時は、それを倍加してくれます。吟道に勤しむ者に定年はありません。終生現役であります。「孫は、来てよし、帰ってよし。」と申します。吟も「やってよし、人に勧めてよし。」であります。

小泉龍泰中町会会長は、昨年十月に十名の会員を勧誘され、中町詩吟サロンと命名されました。おめでとうございます。外の皆様も、どうぞ同志を募る事を心懸けて下さる様お願い申し上げます。年頭のご挨拶と致します。

今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。(理事長)

会報 第三十七号

発行日 平成十八年一月二十一日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行所 理事長 吉 永 洲 神
 〒二五〇〇三 東京都中野区白鷺二一三四―五
 (社) 日本吟道学院南洲吟道会
 ☎・FAX 〇三(三三三〇)七〇〇九

本部だより

平成十七年度秋季昇段審査 結果報告

平成17年10月23日(日) 本会秋季昇段審査会が、鷺宮地域センターに於て肅々と実施され、次のとおり決定されました。なお、千葉地区審査会は、前日の22日(土)に船橋市中央公民館にて実施されました。

一般		少年の部		の部	
十段	九段	初段	二段	初段	二段
二名	五名	一名	五名	四名	四名
範師 一名	助教 八名	中伝 一名	五段 一名	奥伝 三名	四段 三名
	教授 一名	八段 四名	準師範 一名	七段 三名	三段 三名
	計 二十一名	計 三十六名	計 一名		
総本部審査委員会をへて昇段					

(指導局)

☆ 新入会員のご紹介

◎ 次の方々が入会されました。どうぞよろしく!!

渡辺 満幸(日高教場) 会員No.七二四(17・10・1付)
 〒八八一〇〇〇三 西都市大字右松三三三二―一〇
 ☎〇九八二一四二一〇九三二

◎ 中町詩吟サロン誕生。おめでとうございます。

鎌形 道子(中町詩吟サロン) 会員No.七二五(17・10・16付)
 〒一五八一〇〇九一 世田谷区中町三二二―一七
 ☎〇三三三七〇三二二八九

鎌形代理子(中町詩吟サロン) 会員No.七二六(17・10・16付)
 〒一九四一〇〇四五 町田市南成瀬一―二二―一二
 ☎〇四二二七三三〇五三三(FAX兼用)

青木巳智子(中町詩吟サロン) 会員No.七二七(17・10・23付)
 〒一五八一〇〇八一 世田谷区深沢四―一九―一〇二〇三
 ☎〇三三三七〇五二二七三二(FAX兼用)

- 浅見 節子(中町詩吟サロン) 会員No.七二八(17・10・23付)
〒二五八―〇〇八一 世田谷区深沢六一―七一―三三
☎〇三―三七〇二―一八七二二
- 土田 穂子(中町詩吟サロン) 会員No.七一九(17・10・23付)
〒二五八―〇〇九一 世田谷区中町五―二二―二二
☎〇三―三七〇二―一三九〇七
- 木村かほる(中町詩吟サロン) 会員No.七二〇(17・10・24付)
〒二五八―〇〇九一 世田谷区中町五―三二―一三
☎〇三―三七〇二―一三四九四
- 白井 弘子(中町詩吟サロン) 会員No.七二一(17・10・25付)
〒二五八―〇〇〇九 世田谷区中町五―三二―一二
☎〇三―三七〇四―一五二五八
- 松川 赫子(中町詩吟サロン) 会員No.七二二(17・10・26付)
〒二五八―〇〇九一 世田谷区中町四―二二―一〇
☎〇三―三七〇二―一八五七
- 佐藤とし恵(中町詩吟サロン) 会員No.七二三(17・10・26付)
〒二五八―〇〇九一 世田谷区中町五―三二―一三
☎〇三―三七〇二―九九三二
- 小泉 敦子(中町詩吟サロン) 会員No.七二四(17・10・30付)
〒二五八―〇〇九一 世田谷区中町五―一七―一二
☎〇三―三七〇五―一三三八九
- ◎鎌倉教場誕生。おめでとうございませう。
- 佐藤 宏子(鎌倉教場) 会員No.七二五(17・11・11付)
〒二四八―〇〇〇一 鎌倉市二階堂一―〇四―四
☎〇四六七―二四―四八〇五(FAX兼用)
- 矢野 昭子(鎌倉教場) 会員No.七二六(17・11・11付)
〒二四八―〇〇〇三 鎌倉市浄明寺四―一四―一二
☎〇四六七―二四―五九三二

- 川島 信子(中町会) 会員No.七二七(17・12・1付)
〒二五六―〇〇四四 世田谷区赤堤四―三六―一六一―三三
☎〇三―三三三二―四一五〇一七(FAX兼用)
- 米長 優吟(若鷺教場) 会員No.七二八(18・1・4付)
〒一六五―〇〇三五 中野区白鷺一―二二―一九
☎〇三―三三三三―九一六七四六

お知らせ

本学院通常総会、並びに正会員大会の在り方について

文化庁の業務監査の結果、平成18年3月総会から次の様に
変更になりますので御注意下さい。

- 一、総会について
- 1 正会員の方は、極力出席のこと。
 - 2 委任状出席の方は、白紙委任状でなく、必ず誰に委任するの
か記名のこと。
 - 3 案内状は、正会員宛直送されますが、返事は代表者に渡す
ことです。

- 4 代表者は、一括して総本部へ送付すること。
- 5 出欠返事締切り……今年度は、18年3月3日

一、正会員大会について

- 1 案内状は、吟道誌に折込み送付される。
- 2 出吟申込みは、出吟料と共に代表者に渡すこと。
- 3 代表者は、一括して出吟料と共に総本部へ送付すること。
- 4 出吟申込み締切り……今年度は、18年2月6日

祝 吟士権決選入賞

去る17年12月11日(日)タワーホール船堀に於いて吟士権選
抜決選会が盛大に開催された。本会は、総勢54名(学院最多)
が参加した。多勢の参加に感謝!!成果は、次のとおり。

- 一、漢詩六段以下の部
- 優勝 山田 恵水(白鷺教場)
- 一、短 歌・俳句の部
- 準優勝 米長 晃城(若鷺教場)
- 一、新体詩の部
- 優勝 吉永 龍奏(龍鳴会第二教場)
- 一、漢詩奥伝以上の部
- 第五位 加藤 杏祥(白鷺教場)
- 一、吟士権者被認定 吉永 龍奏

併せて行われた、広瀬龍正習志野会会長の指導者名吟も素晴
らしかった。平松誠祥・玉龍ご夫妻設営になる祝勝会は、本会
から二万五千元也の祝金が支出され、31名の参加を得て盛大に
催された。

可愛いカップに乾杯!

若草教場 大塚 優 城

山肌が赤や黄色に染まり秋を彩るのには少し早い十月十五日
〜十七日に行われた常陸路の歴史の足跡を辿る吟行研修会の
中日十六日に「第五十一回全国大会の合吟コンクール」の部
に出場することになり安永龍珀・菊田正龍・西谷邦祥・浜美
城の先輩の端に加えていただいた私です。吟題は「涼州詞(黄
河)」で七本での
こと、不安はあり
ましたが挑戦して
みようと踏み出し、
洲神先生、怪我で
体調の優れない龍
賜先生のご丁寧且
つ細やかなご指導
を受けました。

先輩からは「母
音をしっかりと返し
て。」温かい助言
を沢山(多々記し
たいのですが紙面
の都合で略)頂き
ました。頭で解っ
ていても……なの



です。意気投合したメンバーは真実、案、よく練習を重ねたいと思っ
ていても揃って出来る日は限りがありません。家では今までの
でない程の言出（ことば）から先これを続けていたらもう少し上達
（うまくなる）すると思ったりもしたものです。期日は否が応でも
迫（せま）ります。今の私の精一杯の吟と区切りを付け水戸へ。
当日（とうじつ）の雨の中、会場へ入り午後部です。龍陽先生から
「出だしが揃えば大丈夫ですよ。」と激励され出番です。前者の
吟を後方で聞いていた二分間では緊張もなく気持ち静められ
たと思っていました。マイクを直した頃から思いもよらぬ事が生
じていたのに「内緒（うちそと）……素早く対応できませんでした。……
何事もなかったかの様に「涼州詞」を吟じ終えました。心ほしょ
んぼりです。素晴らしい構成吟も幕となりました。

先程本会から返還した大きな大きなカップは可愛い第三位の
カップに変身してしまいました。が、わたしにとりましては「目から
鱗（うろこ）が落ちる。」です。一人では成し遂げられなかつたこと。
お蔭（かげ）様で……と感謝の気持ちで一杯です。これを機に千利休の歌
「稽古（きこ）とは一より習い十を知り十よりかえるものその一」に
ありますように初心に戻り逃げ腰にならず「場を踏み」精進しよう
と思えました。

翌日（あした）楽しく袋田の滝等を見学し、帰路の途次水戸八景の
「一場所」で雨足が強く、待ち続け小降りになったのでその場所
へ向かいました。スズメバチの襲撃に遭ってしまいました。総じて
三十一名が被害を受け、うち本会は十三名と多く痛目（いため）に
遭いましたが、大事には至りませんでした。治療組が一時間余り
も病院に留まりました間、他の方は帰路へと別行動になりましたが、
東京駅で永らく治療組を待っていて下さった本会の皆様に南洲
吟道会の心を感じ取ることが出来感動致（きんどう）しましたのもこの
大会（たいかい）の印象（いんしょう）深いもの一つです。

初参加

国分寺教場 篠田 葉 祥

此のたびは皆様お疲れ様でした。

吟行研修会に初めて参加させて頂き、とても素晴らしい体験が
でき、有難うございました。感謝致しております。最後になつて
（スズメバチ騒動）残念な事故でした。お見舞い申し上げます。

私事ではありますが、五歳の時に慢性中耳炎と診断されて以来、
現在は普通の方の半分は聞こえていないようです。外に出るのがと
っても苦痛でしたが、今は亡き井上さんに声が出そうなので、
詩吟をやらなかつたかと誘われ、国分寺教場に入会致しました。
録音して帰宅。再生したときにこんな事を注意されていたのだと
気が付くことが多々あります。現在はとても厚かましく何度も
聞き返す事にしています。松本先生始め皆さんに煽（あほ）られ
乍（さ）ら今日に至っております。

耳が聞こえないことで何時も煩わしい思いをなさつてらっしゃ
ると存じますが（心の中でお詫びしております）もう少し、ご迷惑
（ごめいわ）でしょうがよろしくお願い申し上げます。



無題

若鷺教場 米長 晃 城

しばらく吟詠から遠ざかっておりました。私は六十歳を過ぎ
た今、初めて詩吟の素晴らしさが分かりかけてきたような気が
します。子供の頃から両親始め親戚中で詩を吟じており、吟詠
はなじみ深いものでした。実姉洋子（龍陽会長）の夫は南洲吟道
会理事長の吉永洲神（よしなが）神（かみ）な（の）です。そんな環
境（かんげい）で詩吟は身体の一部でもありました。

二十代前半で結婚して、子育て、夫の世話等に明け暮れて吟道
から遠く離れていました。それも一段落して、老後をどう生きる
か、そして健康維持にも心掛けなければと生活設計を考え始め
た昨今です。

ジムに通ったり趣味事に通ったりしましたが、「声を出すこと」こそ
が一番体に良いことにハッと気が付いたので。それは子供の頃か
ら親しんでいた詩吟そのものではありませぬか。もう三十年・
四十年と遠ざかってきた吟詠の道でしたが、口ずさむに従って
段々発声を思い出してきました。初めは一本、二本でしたが、
八本が発声出来た時の自分にはビックリもしました。

改めて新人になって南洲吟道会の門を叩く決心をしました。それは
私の意志というより、何かの縁、天の声のような気がします。

私の心の拠所のひとつは、自分を捨ててまでも天のため、国のため、
人のために生きた人生を送った人を敬うことにあります。それは
まさしく西郷南洲翁（せごうなんしゅう）であり、知覧（ちらん）から出撃し
て南方で散った若者の心情でもあります。再び吟道に復帰して
会員の一人として、先人の遺徳（いとく）を偲（しの）ぶと同時に、吉永理事
長の吟と人となりに接する機会が与えられたことを心から幸せに
思います。

全国大会に参加して

三菱・若鷺教場 佐藤 廣 祥

平成十七年度五十一回日本吟道全国大会が水戸で開催され、わが
南洲吟道会から、三十四人が参加しました。大会の前日から吟行
研修会に参加する三十三人がバスに乗込み、洲神号という貸切り
状態で、車輜（しゆそう）長の中島昭龍（なかしまあきりゅう）さんや副車輜
長の平松玉祥（ひらまつたまけい）さんのお世話になりながら、楽しい
旅が始まりました。そして、西山の里で昼食をとった後、西山荘、
弘道館、借楽園と廻り、弘道館では全員で「弘道館にて梅花を賞す」
の大会吟をしました。今年（ことし）は例年に比べて紅葉が一週間ほど遅い
とのことでしたが、それでも木々などの秋の気配や眺めは、すば
らしいものがありました。梅の季節には是非来てみたいものだ
なあと思いました。

翌日（あした）の、全国大会は水戸市民会館で行われ、コンクールの
部に、南洲吟道会からは、女子と男子の二組が出場しました。出
場前の練習では、三本の声が思うように出ず、心配しましたが、
本番では思い切りやるしかないと思いき直らざるを得ない状態
でした。本番前は出だしが大事と、五人で何度も何度も練習を
しました。終わってから、五人で会場の外に出て、